



あだ名は 大風呂敷

後藤新平

後藤新平ほど、いろいろな分野で活躍した人物はいない。新平は

医者でありながら政治家として、衛生、交通、教育、都市づくりなどで立派な仕事をやりとげ、日本にも台湾にもその成果がたくさん残っている。また、新平の考えや計画は人々の度肝を抜き（びっくりさせる）。他の人より一歩も二歩も進んでいるので、その発想ぶりには「大風呂敷」とあだ名をつけられている。

新平は一八五七年（安政四年）六月、水沢の吉小路に生まれる。父親は留守家家臣で、母親の実家も医者という家庭に育つ。子どもころは、有名なガキ大将であり、けんかをしては罰として荒縄で体をしばられ、小屋に入れられることがしょっちゅうであった。でも勉強にはよく励み、六歳で親せきの武下節山の塾で漢学を学び、十歳には藩校立生館（現在の水沢小学校の前身）に入り論語など中国の本を勉強し続ける。

一八六九年（明治二年）国の政治のあり方がかわり、胆沢県庁が

今の奥州市役所のあるところにおかれると、十二歳になった新平は給仕（雑用係りの少年）として採用され、仕事と勉強を両立させながらがんばる。普通の少年とは違う才能をいち早く知った大参事の安場保和は、部下の阿川光裕の手伝いをさせながら勉強するよう阿川に新平の身をあずける。阿川は新平を立生館改め郷学校に通わせながら、その持っている才能を伸ばすよう励ます。

安場と阿川が福島県に転任した一八七三年（明治六年）、阿川は新平に医者になることを勧める。貧乏暮らしをしていた新平の父も、阿川がめんどうをみてくれるというので賛成する。翌年、新平は福島須賀川医学校（須賀川市）に入学し、二年間の医学校を優秀な成績で終了し、多くの病院から誘いの声がかかる。一八七六年（明治九年）安場と阿川が名古屋に転任すると、新平を愛知県病院の医師として呼び寄せる。その後、新平はローレッツ博士から医術を司馬凌海からドイツ語、そして石黒忠恵からは外科手術を学び、医師としての実力と自信を身につける。そして、一八八一年（明治十四年）ついに二十四歳で愛知県医学校長と病院長になる。

一八八二年（明治十五年）岐阜で自由党総裁板垣退助が男に刺される事件が起こると新平は治療に駆けつけ、その一命をとりとめる。

一八八三年（明治十六年）新平は政府の役人（内務省衛生局御

用係)となる。次いでドイツに自費留学してヨーロッパの医学を勉強し、帰国後は国の衛生局長として国の保険制度を整え、医学の発展に尽くす。

一八九五年(明治二十八年)日清戦争が終わると、清国(中国)から日本に帰ってくる二十三人を超える兵隊の身体検査が必要となる。日本中にコレラなどの伝染病が広がってしまっただけで大変と新平は、百万円(現在の約一億円)という巨額の予算措置を訴える。百万円は大変なお金である。しかし、新平は「百万円で伝染病が防げれば、何千万円という損害を防ぐことができる。」と主張する。こんなことから、新平に『大風呂敷』のあだ名がつくようになる。新平は広島など三箇所の検疫所を完成させ、二ヶ月で検疫を終え、世界にも誇れる大成果をあげる。

一八九八年(明治三十一年)台湾民政長官(当時台湾は日本の支配を受けていた)になった新平は、自分の計画をめんみつに調査したのち、「台湾を復興するには、一億円が必要です。」と大蔵大臣に要求する。そして、三代事業といわれる土地調査、鉄道の開通、港の整備をはじめ、教育や衛生整備に全力を尽くす。

一九〇六年(明治三十九年)新平は初代満鉄総裁となる。最初にとりかかったことは、レールの幅を広げて大型の鉄道として、物資

を大量に積み、安全に早く走らせ輸送力を伸ばすことだった。また、鉄道沿線沿いに学校、社宅、ホテル、公園などを整え新社会形成の基盤づくりにも努めた。

その後、一九〇八年(明治四十一年)逓信大臣と鉄道院総裁になり家々に電灯をつけさせることに努める。また、郵便事業にも大きな力をそそぎ、「速達」「郵便貯金」「生命保険」などをしだいに実現していった。黒い木の箱のポストから「赤いポスト」に変えたのも新平の案である。新平は、さらに鉄道院総裁を三度、外務大臣一度、内務大臣を二度務める。前もって科学的にくわしく調査し、それをもとに計画を立て五十年後、百年後の日本を見すえて仕事を進める。その間二三八日をかけて、アメリカ・ヨーロッパの進んだ経済や文化を見聞し、その成果を生かそうと視察旅行も行っている。

一九二〇年(大正九年)新平は東京市長を引き受ける。当時の東京の道路は、晴れの日には土ほこりで、雨天時はぬかるみ、そのうえ、下水は悪臭をただよわせていた。新平は市内をまわって人々に訴えた。

「世界に恥ずかしくない大都市にしよう。」

「そのためには、八億円が必要です。」

新平はここでも「大風呂敷」といわれる。新平の都市づくり構想

はしかりしたものでしたが、お金がなく計画通りには進まず、一九二三年（大正十二年）新平は市長をやめてしまう。

ところが、それからわずか四カ月後、九月一日、関東大震災が発生する。その翌日の九月二日、

「東京をたて直すのは後藤新平しかない。」

と、二度目の内務大臣を引き受ける。新平は焼けた土地を買い上げ、広くて大きな道路や公園を新しくつくることなど、東京市長時代にできなかったことをやりとげようと復興に全力を尽くす。

さらに新平は少年団日本連盟の初代総長になり、日本で最初となる少年ジャンボリー大会を開き、ボーイスカウトの活動をスタートさせる。グループで話し合い、リーダーを中心に生活体験を積み、規律を守り、進んで行動する少年少女の教育を大切にする活動を進めている。特にも忘れてならない『自治三訣』のことがあ

「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そしてむくいをもとめぬよう」このことは、今の子どもや大人にも、いや日本人全体の心に深く息づいていきたいことばである。

大活躍をした政治の世界からしりぞくと、今度は東京放送局（現在のNHKの全身）の初代総裁になる。一九二五年（大正十四年）三月二十二日、日本ではじめてのラジオ放送は、

「諸君、私は後藤新平であります。」

の新平の挨拶からはじまったのである。

*もつと後藤新平のことを知りたい人は、水沢区にある後藤新平記念館を訪ねてみてください。

*参考文献

『後藤新平物語』

誕生一五〇年記念 岩手県奥州市

『岩手の先人 一〇〇人』

岩手日報社

『郷土の発展に尽くした 胆沢・江刺の先人物語』

本平 次男

小学校社会科副読本 『わたしたちの奥州市』

奥州市



後藤新平の銅像（水沢公園）